

# 流山稲門会会員になって

幹事 中津清二 1972年 社会学卒

私はこの流山に住む気は全くありませんでした。柏で同居していた次男坊の結婚があり、成り行きで私達夫婦が流山に転居することとなり、はや13年経ちました。はっきり言って、嫌々ながらの還暦すぎでの転居で、女房は病気になりかけた程です。引っ越し当初、庭の植栽にやってきた某庭師はあまり仕事もせず、そばの家の主が小中の同級生とかで、同級生の庭の手入れに行ってしまう始末です。その行くときのセリフが“頭の良い同級生でよう～W大学に行ったよ！！”そんなやり取りで、2年先輩であることもわかり、18メートル隣家の主に“流山稲門会”に引きずり込まれた次第でもあります。流山市は、何とも管理しにくいような地勢で、鉄道は、常磐、千代田、東武アーバン、武蔵野、流山電鉄(昔は軽便鉄道)と稲門会会員各位

幹事 大澤拓郎 2001年 教育卒

私は早稲田大学本庄高等学院の出身で、高校・大学とあわせて7年間、早稲田でよく学び、よく遊び、よく遊び、そしてよく遊びました。流山稲門会への初参加は2014年10月の第1回交流パーティーでした。私の妻も(他大学ですが)流山在住卒業生の会に在籍しており、きっと早稲田にもあるよと勧められネットで探したのがきっかけで、それが奇しくもパーティー前日の夜でした。翌朝、ダメ元で当日参加希望の電話をしたところ、突然なのに歓迎して下さったことを覚えています。「初めまして」でも、早稲田というそれだけ

の通勤最寄り駅も色々な筈です。サラリーマン人生も「子育て時代」「子離れ時代」「年金時代」と電車と言えば、「痛勤快速時代」「通勤快足時代」「時差通勤時代」とでも言える変化がある流山に住むにつれて、流山の独特の“におい”が他とはちょっと違うことがわかってきて、一言で言いますと、“白みりんを使った、和食の懐かしい味”とでも言えるかなと、感じるようになりました。13年前の新生入生(私)が、地元で溶け込む過程では、“住みやすさ”、“住み心地のよさ”に繋がって行くことになったと思います。もちろん、稲門会員の様々な親交活動が“その糸口”となってサポートしてくれまして。後期高齢者となった今、“母になるなら流山”と共に、“じいじになっても流山”でありたいと、切望している次第です。



で不安や緊張が一瞬で安心感や気軽さに変わるあの瞬間は、とても嬉しかったです。このウェルカムな雰囲気、早稲田の良いところ・流山稲門会の素晴らしさだと思っています。あの日皆様に歓迎して頂いたおかげで今があり、未熟ながら役員を務めております。大先輩の皆様と若手会員との橋渡しとして、少しでも流山稲門会の発展に貢献できるよう、楽しみながら頑張りたいと思います。



## 心に残る思い出(シカゴ空港の思い出) 0字

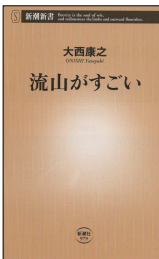
もう50年近くも前の話です、当時私は富士ゼロックスという会社に勤めており125 Sytemと言う主に軟部組織のX線画像を記録する医療器械の営業を担当していました。輸入製品であり医療分野なので、社内でもノウハウがないため、アメリカに2週間の海外研修に行くことになりました。確かロサンゼルスに到着したのが金曜日で時差ボケも直らないままボストンまで移動して病院での研修が始まりました。受講者7、8名の医師の中に東洋人の営業がポツンと一人いるので先方のドクターもビックリしていました、最初製品説明からスタートしたので内容はわかりましたが、確か3日目から医学領域のことになりましたが半分程度は何とかわかりました。1週間の研修後ロサンゼルスへの帰りが

けにそれは起きました。乗り継ぎでシカゴの空港に降りましたが病院での研修を乗り切ったのか持参した「日本沈没」の単行本を読みだしたら止まらず、気付いたら周りに誰もいません。飛行機は出発して外国で置いてきぼりです。来週受講の米国ゼロックスでの研修はどうなるのか、真っ青になりカウンターに駆け込み何を話したか覚えていません。今でもその時の様子は鮮烈で夢にでてきます、何とか次の飛行機に乗れましたが、あんなにビックリしたことは人生でありませんでした。 笠井敏晴 72年 教育卒



## 流山がすごい

流山街道を流山インターで左折し、旧有料道路を野田に向かって走ると右手に大きな建物群が見えてきます。緑に囲まれた余裕のある敷地に、青い「Amazon」や赤い「Rakuten」などの著名な企業のロゴが夜空に浮かび上がり、日本離れた風景に初めて見る方は驚くことと思います。通り抜けるまでの15分、どのような経緯で、この日本最大級の物流倉庫群は出来上がったのか、とても気になりました。既にご存知の方も多いと思いますが、校友大西康之さんが、流山に関する本を出版されました。「流山がすごい」です。この本に、巨大倉庫群の開発経緯が載っていました。急激に変容していく流山には地元においても驚かされます。「流山おたかの森駅」「流山セントラルパーク駅」の命名経緯、有名な



「母になるなら、流山市。」や「送迎保育ステーション」が生まれた経緯等が記載され、また、流山稲門会会員として活躍された尾崎えり子さんと2019年稲門交流パーティーでの味醂スイーツ紹介の machimin 手塚さん、2018年年度総会講演「横浜・千葉・さいたま・流山プレゼンバトル」の河尻さんも登場し、親近感を持って一気に読み切りました。大西さんから次のコメントをいただいております。「1988年法学部卒の大西康之です。日本経済新聞で記者を28年務め、2016年にジャーナリストとして独立しました。普段はビジネス・ノンフィクションを書いておりましたが、30年住んだ流山が「すごい」ことになっているので、初めて地元の本を書いてみました。ご感想など頂ければ幸いです。」一度手に取ってご覧いただきたいと思います。編集部

# 流山稲門会会報

発行責任者 会長 高橋孝志  
電話 080-5180-0982

流山稲門会HP



入会希望の方は流山稲門会HPの  
トップページの「会員募集について」を  
ご参照下さい。

## 流山稲門会第21回年次総会開催さる

流山稲門会の歴史上、総会の雨天は初めてのことでしたが、第21回年次総会は、2023年3月26日(日)11時、定刻に開会しました。マスク着用は個人の裁量ではありますが、皆さんをお迎えする役員は、全員マスク着用で感染対策に万全を期して臨みました。第一部総会、高橋会長の挨拶に続き、牛島副会長を議長に選出して議案の審議です。第1号議案2022年度活動報告、第2号議案2022年度会計報告と監査報告、第3号議案2023年度活動計画及び予算について、石井幹事長、伊東会計幹事、中津監査役が説明、来賓の方から、ホームページについて質問がありましたが、順調に進行、挙手による採決を行い、全議案が可決承認されました。続いて、地域社会貢献功労者表彰。高橋会長と宮内副会長が制度の趣旨を説明後、勝山徳三郎さんと内木幸夫さんの2名の会員を表彰しました。続いて、来賓の方々を代表して、早稲田大学千葉地域コーディネーター梅原竜司氏、早稲田大学校友会千葉県支部副支部長木内健二氏のお二方から、温かいお祝いのご祝辞を頂戴し、第一部を終了しました。



梅原竜司氏



木内健二氏

休憩を挟んで第二部は、「流山小学校—地域と共に150年—」と題して、流山市立博物館学芸員松本武之氏による講演です。渡辺企画委員長が、氏を紹介して始まりました。千葉県初の小学校として開設され、今日までの校舎等の変遷など、氏自らの研究成果の発表とあって、情熱溢れる1時間の講演でした(下記を参照)。

再び休憩を挟み、第三部懇親会です。懇親会がない状態が3年間続くとはい、誰が想像できたでしょうか。ここで高橋会長が、ご出席いただいた来賓及び学生の方々15名を紹介しました。船橋稲門会澤田会長から、久しぶりに流山の総会に出席できたことを嬉しく思う旨の乾杯のご発声いただき、元気な唱和で4年ぶりの懇親会が和やかに始まりました。懇親会の中で、学生2名による、早稲田祭2023のPRを明るく行っていただきました。続いて、12の同好会のうち、プラチナ倶楽部、若手の会、カラオケ同好会、湯楽会の代表世話人の方々が、活動内容を紹介しました。続いて、総会初参加の会員、大河原彰さん、高橋哲雄さん、三ヶ田康朗さん、緒方茂昭さん、坂梨圭子さん、北原孝浩さんの6名を、笠井副会長が軽妙なインタビューを交えて紹介しました。



初参加の方々



校歌斉唱

次は、お楽しみ早稲田ビジュアルクイズ。どれだけ詳しく(ややまニアック?)早稲田のことを知っているかを、着席しているテーブル毎に三択で競う団体戦です。安藤副幹事長と三木幹事の絶妙な掛け合いで進行、10問中の正解数でテーブル毎の順位を決定し、金・銀・銅の各賞品がそれぞれのテーブル全員に授与されました。賞品は、支援を続けている岩手の震災復興団体から購入したものです。校歌斉唱は皆さん大きな声で唱和、久しぶりで胸に迫るものがありました。最後に、石井幹事長が参加の皆さんに謝意をお伝えして、15時過ぎに閉会となりました。出席者は80名(うち会員65名)でした。 副幹事長 須賀勝己 80年 法卒

## 流山小学校 —地域と共に150年—



松本武之氏の講演

総会第二部で「流山小学校—地域と共に150年—」と題して、流山市立博物館松本武之氏に講演していただきました。流山稲門会会員の皆様も、千葉県で最も早く設立された地元の流山小学校の歴史は興味深いと思われまので、講演内容の概要をお伝えします。明治5年に学制発布され、寺子屋は廃止、各府県にて学校設立が始まりました。流山は、県庁所在地であったことから、早くも同年9月常与寺に印旛官立学舎が設立され、付属機関の流山学校(現流山小学校)が開校。明治22年、町村制施行に伴い、流山町・新川村・八木村が誕生、寺に在った数校が流山尋常小学校に統合、現在地に校舎が新築されました。

大正4年、流山尋常高等小学校は校舎を新築、記念として校章・校歌を制定しました。昭和6年、学校初の航空写真撮影。昭和12年、学校初の2階建て木造校舎完成。昭和16年、流山国民学校と改称。戦時体制のもと、学区内の陸軍糧秣廠へ勤労奉仕。昭和19年頃は空襲警報のため授業や行事が中止。終戦後、昭和22年流山町立流山小学校と改称。昭和42年市制施行に伴い流山市立流山小学校と改称。以降、急激に人口が増加し、昭和50年に鱈ヶ崎小学校、昭和54年に流山北小学校、昭和57年に南流山小学校が分離しました。記念式典について、60周年記念式典、90周年鼓笛パレード、100周年航空写真と記念文化展、150周年航空写真と記念キャラクター制定等、また詳しい歴史については、給食や運動会の様子等、豊富な写真と図で紹介していただきました。

聴講された卒業生の内木幸夫さん(68年商卒)から次のコメントをいただきました。「地域と共に150年」を楽しく拝聴しました。私は流山小学校1950年入学、1955年卒業です。在学中に80周年を迎えていたはずですがイベントの記憶はありません。校庭の南側は現在の平和台駅まで一面畑でした。3年生のある雪の降る日、校庭で図画工作の授業があったのですが、数人の生徒が畑で大根を抜くはずををしでかし、罰として雪の降る中、全員裸足でグラウンドを走らされました。泣く子もいました。甘辛い思い出が蘇りました。運動会も花形の騎馬戦は今は無く、弁当持参の楽しい家族総出の応援も無いようです。校歌「江戸川べりのわが里は その名も清き流山……」講演を聞きながら懐かしさがこみ上げました。最後に仲間たちと大きな声で歌ったかったな。 編集部



150周年航空写真